



写真:ヤマブシタケ (撮影:平成29年12月1日)

「ヤマブシタケ」

焼酎文化と接点があるキノコ

秋も深まった頃、アバンドン
 トしらとり郷土の森を歩き、
 ふと大木を見上げると、なにやら
 大きくて丸い物体を見つけました。
 ソフトボール大で針の塊のように
 見えますが、木漏れ日を浴びて美
 しくもあります。

ヤマブシタケというこのキノコ、
 広葉樹の枯れ木や洞から発生しま
 す。和名は、山伏が胸につける
 梵天ぼんてんに似ていることからつけら
 れたようです。他にも、南九州では
 「上戸茸」とも呼ぶ地域があります。
 飲めない下戸が、懐に乾燥したヤ
 マブシタケを隠し、焼酎を吸わせ
 て飲んだふりをしたことからつけ
 られたそうです。

多くの国で古くから食用、薬用
 として利用され、それぞれの国や
 地域で多くの呼び名があるよう
 です。日本各地、えびの市内の店頭
 でも栽培されたものが見られます。
 焼酎文化と接点のあるヤマブシ
 タケ。この庶民的なキノコを探し
 に秋の霧島山を歩いてみませんか。
 「飲ん方」の話のタネにもなるかも
 しません。

(文/えびのエコミュージアムセンター)

ヤマブシタケ
Hericium erinaceum

ベニタケ目 サンゴハリタケ科

